# 令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立新北島小学校の結果概要

国語の平均正答率が新北島小学校では53%（全国比87%、大阪市比90%）だった。領域別に大阪市比でみると「話す・聞く」は102%「書く」は89%「読む」は86%であった。

算数の平均正答率は51%（全国比90%、大阪市比91%）で、領域別に大阪市比でみると「数と計算」は97%「図形」は83%「測定」は97%「変化と関係」は84%「データの活用」は82%であった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
成果…「話す・聞く」領域において大阪市の平均を超えている。
課題…考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること、漢字を文の中で正しく使うこと、特にこの二点の問題への正答率が低い。

［算数］
成果…「数と計算」「測定」領域において大阪市比で95%以上正答している。
課題…体積についての意味理解、二次元の表から条件に合う数を読み取ること、示された二つの表から集計に誤りの項目を見つけその根拠を表の中の数と言葉を用いて記述すること、特にこの三点の問題への正答率が低い。

質問調査より

成果…「自分には良いところがある」「学校に行くのは楽しい」「先生は認めてくれている」「友達関係に満足している」への肯定的回答が大阪市平均より高い。また教職員は大阪市平均以上に「授業中、児童は落ち着いて学習に取り組めている」と感じている。

課題…「平日の1日に勉強をする時間」が0時間の児童の割合は14%で大阪府平均の1.3倍である。また、「学校が休みの日に勉強をする時間」が1時間以下の児童の割合は71%で大阪府平均の1.4倍である。これら現状から、家庭で学習内容の定着を図る工夫をさらに行っていく必要がある。

## 今後の取組（アクションプラン）

●国語では、３つの取組によって平均正答率を上げる。①朝の読書タイムを徹底し、読書活動の充実を図る。②教科横断的に自分の考えや気持ちを書く場面を増やす。③簡単な読解問題のプリントを、継続的に取り組ませる指導体制を作る。

●算数では、３つの取組によって平均正答率を上げる。①全国学力調査に即した様々な問題を解く機会を設ける。②授業のまとめで「本時で学習した内容」を言語化させる指導を取り入れる。③放課後個別指導による個別最適化された学習環境を作る。